

(様式1)

令和6年度 学校評価結果報告書(特別支援学校用)

(1) 学校教育目標	将来の自立と社会参加を目指し、児童生徒一人一人の障害の特性などに応じた教育課程を通して、心身の調和のとれた発達を促し、心豊かにたくましく生きる児童生徒を育てる。
(2) 現状と課題	本校は知的障害がある児童生徒を対象とした小・中学部を設置する特別支援学校である。カリキュラム・マネジメントによる教育課程の改善、教員の専門性向上と学び合いを支え合う教職員集団による教育力の向上、児童生徒個々の障害特性に応じた学習環境を整え、ICT活用による指導方法の充実、地域連携や交流及び共同学習の推進等を通じて、指導の充実を図ることが求められている。
(3) 重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 生きる力を育む教育の推進 2 授業の充実 3 教員の専門性の向上 4 保護者や地域との連携
(4) 結果の公表	集計結果について、保護者に対しては紙媒体で配布、教職員に対しては電子媒体を用いて職員会議で説明し、地域に対しては学校ホームページに掲載することにより周知する。

学校整理番号	特14
学校名	青森県立八戸第二養護学校
対象障害種別	視覚・聴覚(知的)・肢体・病弱
自己評価実施日	令和 6年12月6日(金)
学校関係者評価実施日	令和 7年 2月13日(木)

(9) -イ 学校関係者評価委員会の構成
・学校運営協議会委員 7名 ※本校PTA会長、うみねこ学園長、社会福祉法人サポートセンター虹理事長、元八戸第二養護学校校長、是川保育園園長、校医、障害者就業・生活支援センターみなと副センター長

自己評価				学校関係者評価		
番号	(5) 評価項目	(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	(8) 目標の達成度	(9) -ア 学校関係者からの意見・要望・評価等	(10) 次年度への課題と改善策
1	生きる力を育む教育の推進	①自立と社会参加に向けた体験学習の推進 ②教科を中心とした教育課程の実践 ③キャリア教育を踏まえた系統性のある指導	・教科を中心とした教育課程を通して、児童生徒の生活を念頭に、各教科の見方、考え方を考慮した指導実践を行った。	B	・ 中学部の段階から職場を見学することは自分の将来を考える上でよいことである。今後も職場見学、体験とステップで取り組んでほしい。	・ 児童生徒が将来の社会的・職業的自立ができるよう、キャリア・パスポートを効果的に活用し、保護者とともに必要な資質・能力の育成に努める。
2	授業の充実	①各教科や将来の生活を基据えた根拠と妥当性のある指導内容の設定 ②児童生徒の変容を的確に捉えるための学習評価の充実 ③自立活動の指導、特別の教科 道徳の充実	・ 学びの履歴チェックシートや指導内容を指導者間で活用し、学びの系統性、連続性を重視した取組を引き続き行うことができた。 ・ 自立活動推進リーダーを活用しながら、話し合いを行い、授業改善を行った。	A	・ チームとして先生方が協力し合い、子供を中心とした授業作り等を今後も引き続き取り組んでほしい。	・ 国語、算数以外の教科に関しても学びの履歴チェックシートや指導内容表、評価表を整理し、授業の充実を図る。 ・ 校内の支援体制を有効に活用し、児童生徒の指導、支援の充実を図る。
3	教員の専門性の向上	①各教科に関する研修の参加と学びの深化 ②授業改善による教職員が支えあう組織力の向上 ③学部間授業参観の実施 ④成果を高めるICTの効果的活用と充実	・ 特別の教科道徳やICTを活用した指導について、外部講師や校内の専門性のある職員による研修や学習会を計画的に進めることにより、学校全体で専門性の向上を図ることができた。	A	・ 特別支援の免許を持っている教員が増えていることは良いことである。健康教育、生活習慣の学習は、日々の生活に直結するものなので、家庭や医療と連携して行ってほしい。	・ 今後も外部講師や校内の教員の専門性を生かした研修や学習会を計画的に行い、特別支援教育の専門性や指導力を高める。
4	保護者や地域との連携	①保護者に指導に関する十分な理解を深める提案 ②学校運営協議会の支援提供等をもとにした地域連携の具現化 ③保護者と話し合う時間の確保、必要な情報提供のための提案や工夫	・ 学校運営協議会の支援提供のもと、地域のこども園との交流を通して、田植えや福刈りの体験を実施できた。 ・ 福祉や進路に関する情報提供や指導・支援に関する保護者との面談等を行い、保護者との連携を図ることができた。	A	・ 地域と連携した取組は、PTAや運営協議会委員なども援助するので、積極的に行ってほしい。学校の学びを基本に地域と連携した学習に発展できるようにしてほしい。	・ 肥満傾向の児童生徒が増加傾向にあるため、健康教育についても医療機関等と連携して取り組む。 ・ 学校運営委員やPTAとも連携しながら、地域に開かれた学校をめざし、地域資源を生かした学習に取り組む。
5	労働環境の改善	①勤務時間の適正化による業務改善の取り組み ②全教職員によるワーク・ライフ・バランスの積極的な取り組み ③教職員が協力し合える労働環境の整備	・ 会議時間を明確にしたり、定時退勤を推進したり、振替を取得しやすい環境を整備したりすることで、勤務時間の適正化に向けた改善を図った。	B	・ 大規模校ならではの課題はあるが、教職員で共通理解をするために必要なことはあるので、やることから取り組んでほしい。	・ 分掌再編による業務の整理及び業務分担の改善を図る。 ・ 教職員がお互いのコミュニケーションを積極的に図れる職場づくりに努める。
(11) 総括	<p>保護者からの評価について、アンケートの回答結果から、全体として肯定的な回答群(「できている」及び「大体できている」)は15項目中14項目が90%を超えており、評価は高いといえる。中でも、「計画的な学習活動」、「災害や学校事故への対応」、「個人情報の保護」、「保護者との連携」に関する項目は、97%と高い評価であった。特に保護者との連携に関しては、令和5年度93%に比べて、令和6年度は97%と高い評価であった。一方、「キャリア教育(キャリア・パスポートの活用)」に関しては、85%と全体から比べて低い評価であった。この項目については、「わからない」と評価した保護者が23名いた。その他にも進路指導やPTA活動への協力、教育活動の地域への発信と理解啓発の推進、いじめの未然防止等の取組について、わからないと評価した人数が5名以上いた。</p> <p>教職員からの評価について、「学校運営・学習指導」、「保健・安全、生徒指導」、「家庭、地域との連携」の項目は、肯定的な回答群が90%以上であり、高い評価であった。その中でも、災害時の対策や個人情報の保護、いじめ防止対策の取組に関する項目は100%を示し、学校は児童生徒の安全・安心に配慮した教育活動が行われていることが分かる。一方、教職員においても、保護者アンケートの結果と同様キャリア教育に関する項目が80%と全体的に低めの評価であった。また、労働環境に関する2項目が87、89%であった。</p> <p>以上より、キャリア教育の取組に関しては、学校課題として今後改善を図っていくとともに、取組内容を保護者に分かりやすく説明すること、また保護者も一緒に子供たちのキャリア形成のために系統的に取り組むことを理解したうえで取り組んでいく必要がある。また、学校で行われている様々な教育活動について、参観日や通信、ホームページなどを通じて、分かりやすく説明をする必要がある。そして最後に、教職員の労働環境については、今後も一人一人業務の軽減を考えながら、働き方の改善を図っていくことが大切であると考えられる。</p>					